

地方自治ここにあり 首長インタビュー

# 5期20年 ふるさとへの情熱 まちづくりは終わらない

田辺市長 真砂 充敏 さん



真砂田辺市長

和歌山県内の市町村長を訪ね、まちづくり政策を聞く首長インタビュー。今回は田辺市の真砂充敏市長との対談です。聞き手は当研究所の鈴木裕範常任理事です。

## 5つの自治体をついにした 先駆的な観光戦略

鈴木：真砂市長、今日はよろしくお願ひします。

市長：はい、お願ひします。

鈴木：2005年に市町村合併があつて、合併後初めての田辺市長に選ばれたのが真砂市長で、以来、市政を担当されて5期目に入りました。

真砂市長が描いた新しい田辺市のまちづくりの、今の時点における到達点、これをどう評価されるか、そして、将来についてどうお考えになつておられるか、お聞かせいただけます。

新田辺市は、旧田辺市、本宮大塔、龍神、それに市長が町長を務めていた中辺路の5つの市

町村が一緒になつて誕生しました。それぞれの自治体に歴史があり、主張、利害が錯さうしたと思うのです。そういう中で、近畿で一番広い自治体、広域化した田辺市をどのように、1つの市につくりあげていくのか、は大きな課題になりました。

市長：そうですね、広域な合併で、市町村数も5つということですので、合併協議そのものにも様々な課題がありました。しかし、合併協議は、かなり熟度

が上がるところまで協議を重ねましたので、1つのまちとしてスタートする合意形成ができていたと思います。ただ、それぞれのまちの経過や歴史、行政のやり方とか、様々な特徴があります。その個性みたいなものを合併ですべて失くしてしまうのもどうかという声がありましたし、かといつて1つに統一していくという、相矛盾するようないくつか、個性を生かしながら統合するという、難しいかじ取りといま

すか、単に1つのまちにすればいいという問題ではなかったという辺りは、田辺市の運営上で大変特徴的なことだと思ひます。

鈴木：当時、合併することによつて、人口が多く経済力も財力

もある、田辺市が中心になつて周辺部は取り残されていくのではないかと、市長のふるさとの中辺路の方からもそういう話を聞きました。

市長：合併によつて周辺部の声が届きにくくなるという懸念は住民の中にもありました。私はそれで合併後、今もそうですが、1日市長室というような名前を付けて、できるだけ旧町村へ出向いたり、市政懇談会で、各地域へ出向いて声を聞くというスタイルを続けてきました。最近

はコロナで出来ていませんが、声が届かなくなるという懸念は可能な限り払拭しようとしてきました。それともう一方では、

行政局という名前で、自治法上は支所ですが、旧町村の行政の窓口を、きちんと確保することも含めて対応してきました。ただ、人口が減つたから合併したという側面もあるのですが、山村部の皆さんの中には、やはり合併によつて、地域が寂れていくことに拍車がかかつたと感じている人も少なくないと思ひます。

鈴木：看板名が変わつただけでは仕方がない。

市長：例えば行政局長の権限をどうするかとか、財源が伴うのかとか、そこまで行かないと、その地域の振興や、地域独特の行政はできないのではないかと、こういう議論と裏腹になつ

## 目次

地方自治ここにあり 首長インタビュー  
5期20年 ふるさとへの情熱  
まちづくりは終わらない

田辺市長 真砂 充敏さん…… 1

第12回わかやま住民要求研究集会記念講演

「デジタル田園都市国家構想の概要、問題点、対抗軸」②

奈良女子大学教授・自治体問題研究所理事長 中山 徹氏…… 9

新年のご挨拶 「防衛費倍増」そして地方自治体の未来

和歌山県地域・自治体問題研究所 大泉 英次理事長…… 14

# わかやま住民と自治

発行／和歌山県地域・自治体問題研究所  
和歌山市太田2丁目14-9 太田ビル203号  
TEL・FAX 073-488-3127  
jichiken@crux.ocn.ne.jp 2023年1・2月号

## 時代の風を読んだ まちづくり戦略

ていて、財源は移っていませんが、本庁の部長級との連携を深めるということでカバーできるような配慮はしています。そこは難しいところだと思います。

**鈴木**：山間部の御出身の真砂市長ならでは、視点、姿勢だと思います。

平成の市町村合併というのは、振り返って評価すると、良かったのか、どうだったのか。いまだに評価は分かれています。  
**市長**：そうですね。これは、評価をするときに、照らし合わせて比べる相手がないのですよね。極端に言えば、合併しなかった中辺路や大塔、本宮、龍神があれば、比べられるのですが、既に合併していますので、なかなか比較しようがないというのが1つと、それとこの評価というのは、後の歴史の評価に委ねざるを得ないところがあるというか、自らが評価を下すものでももちろんありませんし、住民の皆さんがどう感じられたかというのも様々ですから、評価というのは難しいと思います。ただ、広さゆえの恩恵というのですか、良い資源がたくさんあるので田辺の魅力在前面に出している施策へ反映していきたくて努めてきました。その評価についても私がしづらいたところがあるのを御理解いただきたいと思えます。

**鈴木**：地域振興の大きな柱に観光があります。合併のプラスの面を生かしたのが、観光のまちではなかったかと。田辺市熊野ツーリズムビューローは、5つの市町村の観光協会をつなぎ、新しい観光の形を目指しました。

**市長**：そうですね、ちょうど2004年に熊野古道が世界遺産に登録をされています。これを生かしていくとなれば、やはり観光による地域活性化ということになりますし、ちょうどこの辺りから観光そのものに対する考え方、捉え方が少しずつ変化してきました。

**鈴木**：全国的にね。  
**市長**：単なる物見遊山ではなくて、体験型や、文化とか歴史とか自然とか、そういうようなものに親しむということが観光の分野に大きく広がっていったとします。そうした時代背景も含めて、新しい観光の形というのが、ちょうど合併した田辺市の目指す観光と、ある意味、方向はそんなに違ってなかったということではないかと思えます。

**鈴木**：それぞれの市町村が持っている地域資源の特徴を磨いて生かすことができれば、より大きなものになっていく、と。

**市長**：そうですね、だから、合併の話もそうですけども、観光協会は5つありまして、その観光協会はいまだに合併をしていないのです。

それが残っている意味、その地域の特徴として残っている。そこにツーリズムビューローが観光協会を束ねるような形で、田辺市全体の新しい観光の在り方を模索していくことで、ここはうまく機能してきたのではないかと感じています。

ベクトルが同じで、やつぱり役割分担がうまくできてきたのではないかと思えます。

**鈴木**：田辺の観光行政は、世界遺産を地域の財産として育てあげてきた。まだインバウンドがそれほど言われていなかったときに外国人観光客に着眼しました。

**市長**：そうですね。私はその辺り、ちょうど時代の背景と、やろうとしたことが、ぴったりはまったと考えています。むしろブラッドというカナダ人を採用して、世界的な観光地を目指すと、少しハードルが高かったのですが、当時、外国に向けてという発想の乏しい頃に、既にそうした発信をしようとしたことが、今振り返ってみれば、先進的だったと思えます。

**鈴木**：行政の取り組みの一方で、住民の方の意識も随分変わってきたようでした。例えば、地元

の女性の方が、食を提供するよくなことが行われるとか。

**市長**：やつぱり地元はなかなか地元の良さが見えなかったりからなかったり、あつて当たり前の世界なのですが、改めて外から来る人、特に外国人などが来て、中辺路の高原からの景観を見て大感動しているわけですね。そういうのを見た地元の人

が、世界から賞賛されるようなところが暮らしているということとが分かる。両方いい面が出る

と、地元元気だったり、再認識だったりつながる。それがまた観光のいい面だと思います。

**鈴木**：うがった言い方かもしれませんが、中辺路が元気なのは市長のふるさとであるということと関係があるのですか。

**市長**：いや、それは特に関係ないと思えます。ちょうどこのころ、時代の追い風とも重なるのですが、熊野古道がこれほど欧米の方々に支持を受けるとい

はします。  
**鈴木**：確かに中辺路ルートは熊野古道随一の優れた場所だと思えます。景観だけではなくて、人の心も含めてですね。

**市長**：そうですね。  
**鈴木**：平成の市町村合併で一番得たのはどこだという話をすることがありますが、何人かがあげたのは、本宮でした。

**市長**：確かにそうかも分かりませんが、でもそこは、損得ということではなくて、東牟婁郡と西牟婁郡と日高郡をまたいでいるという辺りが、なかなか難しさがあるのです。もう1つの特徴は、熊野本宮大社という、熊野古道中辺路ルートの最終目的地、もちろん新宮(熊野速玉大社)も那智(熊野那智大社)も

あります。熊野本宮大社が田辺市と一緒になれたというのは、僕は田辺市の合併としては良かったと今も思っていますし、それが本宮にとっても田辺にとっても良かったと思えます。要は、海岸線から最終目的地の熊野本宮大社まで、熊野古道中辺路ルートが1つのまちに収まったことが大きいと思えます。外国へPRしようと思えば、部分的では駄目で、統一することが必要ですが、合併によってそれが実現したと捉えることができ、良かった点じゃないかと思えます。

**鈴木**：市役所内にたなべ営業室



インバウンド観光で賑わう熊野古道

を設けて、職員の意識変革も促しました。

市長：合併10周年を節目に、次の10年のステップを踏めるような年にしようということ、声高に役所内に向けて言ってきたのです。そこで平成26年に、たなべ営業室という、それこそほかの役所にはない部署を、トップダウンでつくった。どんな目的でつくったかという、その営業室で何かの営業にいくのではなくて、職員のプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を求めていかないと、単に事務事業だけを消化すればいいという時代じゃないということを意識するためにつくったということなのです。

それがのちのたなべ未来創造

塾につながっていくのですが、ちよūdとその辺が地方創生という国の流れと合致してきて、まち・ひと・しごとというのが合併10周年を節目に次のまちづくりを考えようとしたのと基本的に合致して、ちよūdと大げさに言

えば、地方創生の先駆けのような、第一歩を先に踏み出したところが田辺市にありました。その辺が後々の今につながっている、職員の意識改革はなかなか難しいのですが、それを目指してきたということです。

もう一方で若手職員の職員提案制度というものをつくって、職員がいるんな、行政の新しい取り組みについて、市長、副市長を前にプレゼンするという提案制度をやっている、それも毎年いろんな提案をもらいながら、できるものは採用し、できないものには「考え方はいいがもうちょっとと練って」みたいなことを言いながら、アイデア賞みたいな賞をおくっています。職員が、やる気になっていくことを少しでも前に出していけないのかというのは、就任当初からの悩みであり課題であると思っています。

鈴木：若い職員のアイデアや感性をどう取り込んでいくかが大事ですよ。

市長：そうですね。今、特に時代そのものが大きく変わってきていますので、例えばコロナの影響を受けて考え方や生活の仕方が変わったり、自治体DXということでデジタル化が一気に進んでいる。若手の発想も必要ですし、それを発表できる機会を持つことも大事だと思うので

です。提案が採用されるのも大事ですが、そういう考えを、幹部の前で、こんなしたらどうよと言いう機会があるという、こういうことを大切にすると、自分の日々の業務にやる気というところで反映できると考えています。

年に1回ですが、大体平均7から9件ぐらいの提案があります。それともう1つ、今、コロナ禍でできていないのですが、ランチミーティングという名前を付けて、市長と職員、特に若手を中心に1回あたり10名に限定して、お昼御飯を一緒に食べる。1000人近い職員ですから市長と言葉を交わしたこともないという職員もいますので、そんな機会を設けています。模索しながらですが、自分流に職員のやる気を何とか引き出せないかと、新たな研修制度も考えています。

民間感覚とか、新しい時代の感覚を市役所へ入れていかないと、何回も言うように、旧態依然とした事務処理だけをやって

いけばいいというのではない時代に入っていると。これが考え方の根底にあるのです。

鈴木：住民に、顔の見える行政をどう行っていくかということ、職員にも、自分たちは何をしているのかが見えるような、そういう行政は大事ですよ。

市長：最初は志を持って入ってくるのですが、特に、組織が大きくなると、こんなこと言ってもしょうがないとか消極的に、そして同じ給料なら無難に自分の範ちゅうだけ、こなしておこうとなってしまうがちです。これはもったいない話なので、何とか少しでも積極的になろうと思うのですが、これが公務員制度の中でやりますから大変難しい。いまだに難しいと思っています。

### たなべ未来創造塾は 地方創生「まち・ひと・しごと」を先取り

鈴木：たなべ未来創造塾は、大変注目され期待もされています。成果はどうなのかですか。

市長：はい。たなべ未来創造塾は平成28年からスタートしました。まち・ひと・しごとの地方創生と同じですが、人口減少という、田辺市もそうですが、全国が、特に地方が悩んでいることが背景にあります。また、悩んでいるだけではなくて、いろいろな行政課題の根幹を成すも

のは人口減少だと思いのです。担い手不足や地域の活性化もそうですし、そういうことを一気にカバーする妙案がないわけですよ。そこで考えたのが、その少ない人数で元気に生きるということです。今の若い人たちが

次の時代にも活躍できる人材を発掘し、育てていく作業をする必要があります。今、住んでいる人に頑張ってもらおうというのが1つ。もう1つは、住民票がなくても、今、関係人口と呼ばれる外部にいる人に田辺市のファンになってもいい、田辺市のまちづくりに関わってくれる人を増やしていくという、この2つ。もちろん人口そのものにコミットしていくのは大事なのですが、この2つということをちよūd10年ぐらい前にそんな話をして、その一環として、地域の課題をビジネスで解決するという考え方で、課題を抽出して、それをボランティアではなく、企業の利益にもつなげることで持続可能な活動にしていくというのが、この未来創造塾のものの考え方は、年間12名という受講生を募って、半年かけていろいろな講義を受けて、起業してもらおう。今7期目です。

鈴木：そうですね。

市長：今年の修了生で82名、このうちの何と7割が実行に移しているのです。また、未来創造塾は熊本大学との共催とし



たなべ未来創造塾 (活動報告書から)

て、今では熊本県八代市、天草市、玉名市、阿蘇地域、菊池市のほか、富山県南砺市にまで姉妹塾が広がっているのです。少なくとも私の任期中のあと2回、9期まで未来創造塾を頑張ったら修了生が1000人を超えます。この1000人の7割が新たな挑戦をし、元気をだしてもらえたら、大分まちが変わるといって、その思いをこの未来創造塾に込めて営業室を中心に事業をやってきました。

鈴木：分野ですが。  
市長：多岐にわたっています。例えば、これはどの地域でも悩んでいることですが、山間部の農業では、サルやシカやイノシシに作物を食べられる獣害被害があります。これを地域課題として取り組んだ農家の男性が、捕まえてジビエとして、食肉処理をして販売するビジネスモデルにしてスタートさせました。それに共感したのちの4期生となる、フレンチのシェフが、その肉を使ってレストランをやりたいということ、今、上芳養でキャラバンサライというジビエ工場のレストランをやっているのです。これが、めちやくちや評判が良くて、ミシュランガイドのピブルグランドとグリーンスターという称号も獲得しています。

そういうことがいくつか出てきています。市長室のこのテーブルは実は、あかね材という、スギノアカネトラカミキリの虫食い材なのです。鈴木：立派ですが、もつと出る予定だったのでですが、このテーブルではあまり出ていないようです。虫食い材は50・60年育てても、二束三文にな

ってしまふ。未来創造塾のある受講生たちは、あえて虫食い材のあかね材を家具に使って、こういう節も虫食い跡も個性でありデザインだということ、ポクモクというグループをつくっています。メンバーは、家具屋、製材所、山林家、木工所、デザイナーなどで、こういう人たちが、あかね材をあえて使うプロジェクトをつくって、それが、先のレストランでもあかね材のテーブルを使うとか、塾生同士のコラボもできてきて、私たちが思った以上に盛り上がっているのです。これがある意味、未来創造塾の良さかなと。

鈴木：ビジネスが人をつなぎ、新たなコミュニティをつくる。  
市長：それを目指しているのですが、まだ道半ばだと思います。鈴木：つながることで支え合う、そういう仕組みができれば、地域で頑張ってみようという人が生まれ、生まれてくる可能性がありますね。  
鈴木：そのピブル起業塾の塾生は女性ですか。  
市長：女性がほとんどです。女性の元気が地域の元気ということも考えて、そんなことも併せてやっています。  
鈴木：市街地の女性たちも、周辺部に比べて仕事があると思うけれども、そうでもない。まちなかに住む女性たちの生きがい、働く場、つくりの構想ですね。  
鈴木：そうですね。駅前にドウというパン屋さんがあるので、この女性は未来創造塾へ入ったときに20代半ばの若さだったのですが、1人でパン屋をスタートして、もう5年か6年目ですが、ものすごく繁盛しているのですよ。  
鈴木：そうですか。  
市長：英語が堪能で、今、外国人がコロナで来ていませんが、外国人にも大人気で、地元からも愛されるパン屋ということ、最近2号店もオープンしています。

起業だけでなく、塾生が関係人口をつくる事業にも積極的に関わってもらおうということもやっています。「たなべコトアカデミー」という講座で、都市圏で地方に興味があるという人を、連続講座で10人〜20人ぐらいたくチャーをし、最後に田辺市との関わり方を発表してもらおうという事業をやっています。フアンをつくっていかうと。田辺市やこの地での暮らしぶりなどの紹介を未来創造塾の修了生がする。市長や職員が行うのではなく、地域の人たちと都会の人たちを直接結び付けていくという、こういうことをやっています。  
鈴木：面白いですね。  
市長：他に熊野リボンプロジェクトというのですが、これは低山トラベルという、今、低い山に登ろうという都市圏に住む登山家がいる。このメンバーと実はこの日曜日、僕は一緒に歩きます。今回は熊野古道の潮見峠越えです。その人たちに、リボンプロジェクトとしての田辺市への関わり方をまた提案してもらおうのです。熊野古道だけじゃなくて、今回は梅の耕作放棄地の再生についてどう考えるかをテーマにしています。2泊3日なのですが、1泊は梅畑にテントを張って泊まってもらうという。  
鈴木：梅畑に泊まる？  
市長：都会の人に実際に梅畑の光景とか、梅のいろんな苦労話や後継者問題などの課題を感じてもらってまた提案してもらおう。それを未来創造塾のメンバーと一緒に取組むとかね、できるだけまぜながら、ひつつけながらつないでいくという作業を今、未来創造塾を核にして取り組んでいます。  
鈴木：人がつながる拠点になっ

ているわけですね。  
市長：これも道半ばですが、それを目指しています。  
鈴木：これから面白くなりそうな取り組みです、起案件数も注目です。

### 未来創造塾が 地域・人を変える

市長：起業率が高いついでと、起業するときに補助金がないが特徴です。塾の運営は市の方です。自分がやる仕事には自分でリスクを背負って、でも、補助金の切れ目が業務の切れ目になりがちですが、自分で起業資金を作る。その代わり、金融機関の方も、塾の運営メンバーに入っているのです。日本政策金融公庫などは、ちゃんとしたプランであれば運転資金とか起業資金を貸し付けてくれる。そういう連携が出来るのです。しかし、補助金がない。

でもある意味、真剣度が高まるというか、別に補助金が悪いとは言いませんが、補助金頼みにならないように、あえて補助金は作っていない。その代わり田辺市がずっと応援していくというような、このスタンスは変わりません。

鈴木：塾生になつて勉強するにはお金はかからないわけですね。

市長：受講料は1万円、半年間かけて勉強してもらいます。  
鈴木：ただ、誰でも手を挙げたからといって定員があつてなれるわけではない。  
市長：定員は12名で、ちなみに今年も、3名が4名漏れました。最近、入りたいという人が増え、厳選な審査をしています。申し訳ないですけども、12人にしぼっています。

鈴木：なるほど。  
市長：田辺市在住の方が約8割と地域事業者を中心としながら、移住者も2割ほどいます。移住者の1つの例として、東京の有名大学を卒業し大手企業で仕事をしていた方ですが、自分が誰のためになっているのか、会社でどんな役割をしているのか、自分の居場所が見えなくなり、ちよつとしんどくなった。全国に自分のような予備軍がたくさんいるだろうと、だつたら農業を体験することで、ちよつとしんどい気持ちを改善する事業ができるかという起業プランを出して、今、田辺の古くなった旅館をシェアハウスにして、全国から参加者を募り、合宿みたいな形で梅取りを一月間やる。朝早く起きて汗をかいて、夜も早く寝る。そういう循環で気持ちも良くなつていく。それと農家の方々から、ありがたがられるという、こうした体験により、

なをつかんでもらう。田辺市でそんな農福連携事業をやっているというのも未来創造塾の1つなのです。こんな例が未来創造塾ではいっぱいあります。  
鈴木：なるほど。未来創造塾の開講日時は。  
市長：年間14回の講習があつて42時間ぐらいのカリキュラムになつていきます。そこで人口の問題とか、田辺市の地域課題とか、それから田辺市の魅力などをいろんな人に講師になつてもらい、塾生に伝える。塾生はそもそも自分の問題意識を持つて参加している。例えば、いつも被害を受ける鳥獣害を何とかしたいという思いとか、講師や参加者からのいろんなヒントを得て、半年来かけてビジネスプランをつくり、それを最後に発表する。発表して終わる人もいるし、それで起業していく人もいます。この実行率が7割ということなので、結構高いのですが、失敗した方が少ないですね。大体うまくいっていますね。

鈴木：お話を聞きますが、田辺

### 真砂市政がめざす まちなか再生

鈴木：もう一つが、市役所の目の前にある武道館、これは合気

道の創始者植芝盛平の記念館の様相を含んだ武道館で、南方熊楠顕彰館、弁慶ゆかりの闘雞神社、この田辺3偉人と言われる名所を分散して配置してしまうとまちなかの魅力が欠けるといふこともあつて、あえてここに武道館をつくつたのです。これも景観まちづくりと同時にやって、今、まちなかの元気を取り戻そうということをやっているところ。もう一つ言えば、駅の裏側に、公有地があつたのですが、この土地に民間の力でホテルが建築されています。来今頃には開業できるかな。このホテルが味光路と連携して、泊まった人は味光路へ出てくるような仕掛けをしてくれそうなので、そんなことを期待して、少しでもまちなかに元気を、少なくとも今の現況を維持していく、できれば取り戻していくことを、今考えてやっています。

鈴木：はい。  
市長：これをきっかけに、もう1度まちなかの景観というのを考えて、まちなかの元気を取り戻そうという取り組みを進めてきました。それが駅前界わいの、元々の景観より少しすつきりさせるような事業をやつたのです。タナベエンプラスという交流施設もつくりました。

鈴木：そうですね。  
市長：もう一つが、市役所の目の前にある武道館、これは合気

道の創始者植芝盛平の記念館の様相を含んだ武道館で、南方熊楠顕彰館、弁慶ゆかりの闘雞神社、この田辺3偉人と言われる名所を分散して配置してしまうとまちなかの魅力が欠けるといふこともあつて、あえてここに武道館をつくつたのです。これも景観まちづくりと同時にやって、今、まちなかの元気を取り戻そうということをやっているところ。もう一つ言えば、駅の裏側に、公有地があつたのですが、この土地に民間の力でホテルが建築されています。来今頃には開業できるかな。このホテルが味光路と連携して、泊まった人は味光路へ出てくるような仕掛けをしてくれそうなので、そんなことを期待して、少しでもまちなかに元気を、少なくとも今の現況を維持していく、できれば取り戻していくことを、今考えてやっています。

### 住民自治で 育む町・田辺

鈴木：今のお話にもありましたが、住民主体で取り組むコミュニティの再編が大きな課題になっています。市長は田辺モデルの地域自治構築を打ち出しておられますね。  
市長：はい、よく使われる言葉で言うと、小規模多機能自治と言われるものです。その規模を、

道の創始者植芝盛平の記念館の様相を含んだ武道館で、南方熊楠顕彰館、弁慶ゆかりの闘雞神社、この田辺3偉人と言われる名所を分散して配置してしまうとまちなかの魅力が欠けるといふこともあつて、あえてここに武道館をつくつたのです。これも景観まちづくりと同時にやって、今、まちなかの元気を取り戻そうということをやっているところ。もう一つ言えば、駅の裏側に、公有地があつたのですが、この土地に民間の力でホテルが建築されています。来今頃には開業できるかな。このホテルが味光路と連携して、泊まった人は味光路へ出てくるような仕掛けをしてくれそうなので、そんなことを期待して、少しでもまちなかに元気を、少なくとも今の現況を維持していく、できれば取り戻していくことを、今考えてやっています。



田辺湾を中心としたまちづくり「田辺 ONE 未来デザイン」

町内会単位なのか、小学校区単位なのか、公民館単位なのか、要は、規模は小さくても機能をたくさん担う、多機能な自治の在り方を、もう一度田辺市モデルとして構築しなおそうということ、今、手掛けているので

す。ただこれは、言うのは簡単ですが、実現させるのが難しい。先進地の事例を研究したり、それから町内会の皆さんと相談したりしながら、住んでいる皆さんが、それぞれ自治の能力というかコミュニティ能力を高めてもらわないことには、それだけでなく、絆が希薄になってきて

隣は何をしている人か分からんというような状況で、いざ災害といつても助け合えるかどうか。やっぱり日頃のコミュニティ力、これを地域力と言いますが、それをもう1回、再編し直すという、大変大事な作業だと思っ

ているのです。町内会によって温度差があつて、結構進んでいるところもあるのが田辺市としては小規模多機能自治を実現させられるように、モデル的にスタートできないかと考えています。田辺には、町内会が213あつて、就任直後に市政懇談会で町内会を全部回つたのですが、1年で回れずに2年ぐらいかか

つたのを覚えています。住民自治を、もう1回みんなで協力し合うということが必要です。例えば高齢者の生きがいになったり、それから子どもの子育てにつながつたり、災害に強いまちだったり、防犯力の強い地域だったり、これすべて地域力なのです。そういう機能を担える自治の在り方を、去年ぐらいいから話し合います。できることからやっていきたいなと思つています。

鈴木：人口が減り、若い人がいなくなつて自治の担い手は高齢化しています。難しい時代です。市長：生涯学習で、まちづくり市民カレッジを毎年やっています。その中で公民館区ごとに「地域カルテ」ということで

自分の地域は何が問題で、何が課題で、どういう強みがあるかと、要はカルテをつくつてもらおう作業を去年、一昨年とやつたので、それに基づいて、それぞれの地域課題が違いますから、例えば上秋津では、秋津野ガルテ

ンを中心に、外部の方との農業体験とか、うまくまちづくりをやつているわけです。それとか上芳養なんかも、先ほど言いました鳥獣害対策からジビエとして食肉処理をする若手農家グループ、そしてジビエ料理を提供するシェフなどが中心にまちづくりをやろうとしています。そういう辺りを、その地域の特性に応じながら、今言うテーマ別にやつていく方法がないか、探つているところです。

鈴木：なるほど。市長：それで、地域には町内会があり、消防団があり、PTAなどの団体、つながりがある。そこをもうちょっと横串を刺す方法がないかとか、公民館の在り方も、今までの公民館にあま

りつらわれずに、もう少しまちづくりの観点とか、住民自治の観点で公民館を考え直すという

のも1つかと。公民館を横串刺しにいくのか、消防団にどう協力してもらうのか、防災をテーマにしたら消防団の活動も大きなテーマになりますし、そこへ地域独特のコミュニティ自治を、1つか2つか先進的にできたら、それを見習つてほかの町内会が後を追つていただければ理想的かなと。全部が準備できて、はい、スタートというわけにはちよつといかないと今思つているので、具体的に手を付けていき

たいなと思つています。鈴木：住民自治が機能不全に陥つている。そういうことの1つの原因には、地域における課題が大変多様化して、複雑化していることがあるかと思うのです。市長：そうですね。

鈴木：だから例えば、賛成反対分かれるような問題もそうです。文里湾架橋の問題、これについて住民の意見は、架橋は必要という方向でまとまりつつあるというふうにも聞きます。市長：はい。ほぼそういう方向で進んでいます。ただ一部には、巨費をかけて、そうした公共事業に投資する必要があるのかという疑問を持たれる方もいます。しかし、これはあとでまた話しますが、庁舎跡地の活用も含めた田辺湾岸エリアの、再構築のところで大きな役割を果たしますし、それから災害のとき、特に津波の被害に対して大きな

機能を果たすことなどいろんな効果が期待できます。現在、ほぼ地元合意ができてきていますので、地権者を含めてお話を詰めていきます。これは県営事業です。新事に、その辺をうまく継承してもらえれば、我々も全力で協力して実現に向けて取り組みます。鈴木：災害対策は極めて重要な問題です。この10年ほどの間に、田辺市を襲つた大きな災害が、記憶に残るだけで何件もありま

ことがあるのですが、それと庁舎、これもいろんな議論がありました。再来年には高台に完成します。災害発生時の拠点になる耐震性を確保した庁舎ができあがりまので、一定の津波対策はできつつあると思っています。それと、今策定しているのが事前復興計画、津波が来て大きな被害を受けたところを再興、復興していくための計画。これもなかなか難しいのですが、議論しながらつくっています。完全にはできなくても、考えただけでもまとめておけば、復興のスピードが全然違う。災害後の計画では、事前復興計画と受援計画、人的・物的な応援をどう受けるかという計画、もう一つは、災害後に、対応にあたる職員を確保するため、ほかの業務を休まないといけない。その中で、絶対休めない業務もあるので、それを整理して、業務をどう継続していくかという業務継続計画、この3つの計画を併せて、業務継続計画と受援計画はほぼできあがって、あと復興計画を1年ぐらいかけて、住民の皆さんとも議論しながらつくりたいと思っています。それと、子どもに対しては災害対応の教育を継続してやっています。

**鈴木：**防災対策は来年度中には一定ほどできあがるかな。  
**市長：**そうですね、庁舎の完成と同時に大体のところまではい

けると。完成かどうかは別に、一定の体制をとることができるようになります。

**鈴木：**あと、コロナウイルスの問題です。各自自治体の危機管理も問われたわけですね。  
**市長：**実は皆さんに分かりにくいところがあるのですが、感染症対策は、保健所管轄になり、田辺では県の田辺保健所になります。例えば、感染者の特定とか、それから濃厚接触者の対応とかです。市は、例えばワクチン接種や地域経済対策とかが主担当で、そういう役割分担、国と県と、それから市町村の役割をお互いで果たすというのがコロナ対策だと思っています。田辺市は、毎月ぐらいい臨時議会を開いて対応策を講じているのですが、面積が広くて、影響の受ける業種も多いので、例えば、商品券の配布では隣の町は1万円ずつくれたのに田辺はくれなかったとお叱りを受けるのですが、今5000円配っているのですが、そのぐらいいにしかからないのです。

これは交付金を一人頭に割ると、小さな自治体ほど高いのですね。加えて、旅館やバス会社など影響を受けている業種があまりないとしたら、消費を促す商品券が一番早いのですよ。それも施策だと思わないで否定はしません。これだけで比べられ

たらつらいですね。

田辺市は、ホテルとか旅館とかバス会社とか、今だったらトラックの燃料の問題なども、また、味光路などの飲食店等々、これまで支援してきた事業所は2000店ぐらいいある。だからそういうのも含めて、事業継続ということでも国の施策の間を縫いながら田辺市独自の施策をやりますから、分りにくいと皆さん思うのですが、できるだけ地域の経済を下支えできよう、そんな考え方でやっているのです。

田辺市は、ホテルとか旅館とかバス会社とか、今だったらトラックの燃料の問題なども、また、味光路などの飲食店等々、これまで支援してきた事業所は2000店ぐらいいある。だからそういうのも含めて、事業継続ということでも国の施策の間を縫いながら田辺市独自の施策をやりますから、分りにくいと皆さん思うのですが、できるだけ地域の経済を下支えできよう、そんな考え方でやっているのです。

田辺市は、ホテルとか旅館とかバス会社とか、今だったらトラックの燃料の問題なども、また、味光路などの飲食店等々、これまで支援してきた事業所は2000店ぐらいいある。だからそういうのも含めて、事業継続ということでも国の施策の間を縫いながら田辺市独自の施策をやりますから、分りにくいと皆さん思うのですが、できるだけ地域の経済を下支えできよう、そんな考え方でやっているのです。

田辺市は、ホテルとか旅館とかバス会社とか、今だったらトラックの燃料の問題なども、また、味光路などの飲食店等々、これまで支援してきた事業所は2000店ぐらいいある。だからそういうのも含めて、事業継続ということでも国の施策の間を縫いながら田辺市独自の施策をやりますから、分りにくいと皆さん思うのですが、できるだけ地域の経済を下支えできよう、そんな考え方でやっているのです。

そんなことしかできない。我々も言えるところではもちろん、ちゃんと国には発言しています。

**鈴木：**女性の方々から、真砂市長の市政を評価する話も聞いています。  
**市長：**ありがたいです。  
**鈴木：**しかし、田辺市は合併時より人口は1万人ほど減っている。地域の基幹産業である梅も含めて、元気がなくなっている産業が少なからずあります。  
**市長：**そうですね。  
**鈴木：**田辺市は果たして真砂市政の下で活性化したのだろうか。市長は市民生活を豊かにする、これからのまちづくりを標榜うされているわけで、どうこれを進めていくのか、お伺いしたいのですが。

### 田辺市改造計画 海と山を活かす



**市長：**先ほど少し触れましたけど、庁舎を移転するとこの場所が空いてくるのです。もう一つ、市民総合センターも空いてきます。特にこの庁舎の跡地の利用、それと紀南文化会館の老朽化が著しくて、大規模改修の必要があります。この辺を核にして、単なる跡地利用だけを考えるのではなくて、田辺湾、武道館もできましたし、海水浴場やビーチもできて、ビーチスポーツとか

も盛んになってきています。そこに、文里湾横断道路もできる。それから市道目良線という、天神崎の岬の後ろ側を通る道が、シータイガーマリーナで拡幅が止まっているのを、目良漁港まで抜きたいと思っています。これができたら白浜側の鳥の巣地域から天神崎までグルッと湾岸道路ができあがるのです。今までどちらかと言えば、駅から外向けに、要はバイパスができて高速ができて山側に広がっていたのです。バイパスには、チェーン店が並ぶ、これはもうどこの町もそうなっている。せっかくな魅力のある田辺のまちなかの、特に田辺湾を中心にした、このまちづくりをもう一回、湾岸道路の整備と庁舎の跡地活用を合わせて、これをデザインしたいと、田辺ONE未来デザインという名前を付けているのですが、これを近未来のデザインとして描きたい。2025年の大阪関西万博、その手前の2024年の世界遺産登録20周年、この辺をにらみながら、田辺湾の魅力をもう一回つくりなおしたいと、そうすることで田辺市の中心市街地活性化や、まちづくりの核になっていくと、そういう思いを今強く持っています。  
**鈴木：**なるほど。  
**市長：**今年度中ですね、来年の3月ぐらいいまでには一定のデザインを描きたいと思っています。

鈴木：田辺市大改造計画のよう  
な。

市長：まあ大改造と言ったら大  
げさですが、豊かな海を考える  
ということは、豊かな山を考え  
ることと僕は同義語だと思っ  
ているので、海の方だけ目を向  
けるのではなくて、山間部にある森  
林、これがSDGsとか、それ  
から、森林環境税が令和6年か  
ら本格稼働する。田辺市は全国  
で4番目の交付額を受けるまち  
です。森林をどんなに活用して  
いくかというのは、単に木材産  
業だけじゃなくて環境問題とし  
ても大変大事、国土の保全、C  
O<sub>2</sub>の削減、それから水害のい  
わゆる防災、水源かん養、動物  
で言えば生物多様性、そんなこ  
とはほとんどこの広い山の中  
にあるわけです。だからこの山と  
海、両にらみをしなから、田辺  
市で住み続けられる持続可能  
なまちづくり、これを目指して  
いく、もっと言えば、もう一度田  
辺市全体の、そして豊かな自然  
へ目を向けて、古い歴史文化を  
もっと大事にしなからやってい  
く。これこそSDGs未来都市  
に今年認定してもらった考えで  
す。次の世代がここで住み続け  
てもらえるような手立てをここ  
1、2年、もう任期が2年半ぐ  
らいしかありませんので、精一  
杯務めたいと思っています。

鈴木：自然に大きな負荷がかか  
らないで、どういふふう

していくか。  
市長：災害の観点からもその森  
林整備は必要だと思っています。  
鈴木：もう1つ、地域経済を支  
えてきた梅産業ですが、近年は  
少し陰りを生じていると思っ  
ています。

市長：梅産業もそうですが第一  
次産業、やっぱり担い手の問題  
が、その産業衰退の背景だと思  
うのです。だから次の若い人た  
ちがどんなに農業を継承してい  
くか、林業も漁業もそうですが、  
そこが梅産業を続けていけるか  
の1つだと思います。もう1つ  
は、生産された作物がいい値段  
で売れていく、この辺のシステ  
ムの価格を保っているのですが、  
安定した価格を保てる努力、こ  
れをしないと多くできたら安く  
なり、不作なら物が無い、こん  
なことを繰り返すのではなく、  
一定の価格を安定させる努力が  
必要だと思っています。そして梅  
栽培は世界農業遺産に認定をさ  
れています。世界の食料システム  
の中で評価を受けているわけ  
ですから、体に良いというのも  
いですが、自然環境にももちろ  
んといいのと両方で、梅の付加  
価値を高めていったり保ってい  
ったりという事を、粘り強くや  
っていくことだと思います。  
一番大変なのは漁業です。1  
つ今年から新庄漁協でチャレン  
ジ的に行っているのが、スマと

いう魚の養殖で、もうそろそろ  
出荷のタイミングを迎えます。  
ここで研究しながら事業化を目  
指しています。全身トロミたい  
な魚で結構おいしいので、スマ  
を何とかできないかなと思っ  
ています。

育てる漁業をしないと、捕り  
にいつても魚がいなかったり、  
捕れたけど安いというのでは、  
若い人によつてくれといつても  
難しい。漁業振興は簡単ではな  
いのですが、漁業と観光を結び  
付けたり、それから食ですよ、  
例えば田辺湾の江川の辺りへ魚  
介類を使ったフレンチかイタリ  
アンか、若い子が注目するよう  
なレストランでもできたら、こ  
こにはおいしい魚が年中あるの  
で使ってもらったら。未来創造  
塾で、まちなかでイタリアンの  
レストランをやっているけど、  
ここの魚介類を使うということ  
で、この沿岸部にできてきて、  
漁業だけでやるというのは難し  
いと思つたのですが、今言つた観  
光とか、今度のこの未来デザイ  
ンの中とか、他のものと合わせ  
ながら、何とかできないかなと  
思つたのです。

和歌山県の和菓子職人が選ばれ  
たのは歴史上初めて、田辺は和  
菓子のまちを語るにふさわしい  
まちだと思います。  
市長：和菓子の店は何軒もあり  
ます。

鈴木：優れた名工になるような  
職人さんがいて、優れたお菓子  
の文化がある。田辺のもう1つ  
発信していく文化に付け加えた  
らどうかと思つたりするのです。  
市長：いや、いや、そうですよ  
ね。これからも粘り強く発信し  
ないといけないと思います。鈴  
屋さんや、辻の餅さん、二宮さ  
ん、まるぜんさんなど皆さん頑  
張っています。確かにそうです  
ね。もうちょっと和菓子文化を  
発信すべきですよ。  
鈴木：はい、是非。真砂市長に  
音頭をとつてもらつて、森山さ  
んおめでとう会を開いたらどう  
だつてという声もあります。  
市長：そうですか、分かりまし  
た。

持論としてはあんまりよろしく  
ないと思つています。元々は長  
期政権には批判的な考え方を持  
っているのが正直なところなの  
です。ただ言い訳になるのです  
が、合併という大きな変更があ  
りました。合併の市町村計画期  
間は10年ですので、先ずはこの  
10年は必要です。それに新しい  
まちづくりの10年というスパン  
で考えています。今期で辞める  
かどうかは、これはまた別の問  
題ですが、でもいづれ自分で判  
断するものだと思います。  
日頃、僕はそんなに自信満々に  
やっているのではなくて、いつも  
これで本当に田辺市にとつて良  
いか、市民にとつて本当に良  
かったのかと自問自答をずっと  
繰り返しているのが現実です。  
そのときに判断の基準というの  
を、当たり前ですが、やはり市  
民目線で判断基準をブレないよ  
うにする。そこが一番気にして  
いるところです。

鈴木：大変な仕事ではありません  
が、残る任期中に仕上げること  
もたくさんあるというお話を  
伺いました。更に、もう1段  
ギアを上げてもらわないといけ  
ないかと思つました。  
市長：本当に残りの任期も、精  
一杯務めたいと思つています。  
鈴木：御活躍をお祈りしていま  
す。長時間本当にありがとうございます。  
(写真提供・田辺市)